

2022年度

藤沢白門会の活動

会長挨拶 今年こそ「ウイズコロナ」から「ポストコロナ」で前進を

この1年も新型コロナウイルスの感染がまだ収まらず、会の活動に大きな支障をきたしましたが、皆様におかれましてはコロナに負けずお元気にお過ごしのことと存じます。

令和4年度はコロナの波の合間を縫ってそれなりの活動をしました。7月には「長野県中信支部」の創立70周年記念に参加しました。特に素晴らしかったのは「法曹をめざす高校生の君たちへ」というテーマで、才口千晴元最高裁判事・現弁護士の特別講演は当日参加した松本深志高校他約50人にとって非常にわかりやすく大いに参考になったと感じました。

次に、大和白門会から「ウクライナ」を支援したい旨の話があり協力することとし9月にウクライナ大使館を訪問しましたし、同月には学員時報新企画の副会長座談会に箱根駅伝沿道応援というテーマでの座談会に参加したことは学員時報11月錦秋号の通りです。

地引網大会は10月に実施し、会員家族と父母会の方々に参加され、50人程での開催の結果、漁師もびっくりするほど大量となり大いに盛り上がりました。

同月には工学院大学の幹事によりSUC（湘南ユニバーシティクラブ）の親睦交流会にて、14大学が参加をして開催されました。参加人数を制限し限られた時間ではありましたが久し振りということで交流に花が咲いた親睦会でした。

11月には県内の合同白門会が横浜支部が幹事となり中華街で開催されました。厚木支部設立準備会からも参加してもらい、各白門会から短い時間での現況報告（何れも殆ど活動は出来ていない）があり、あとは懇談で3年振りの旧交を温めることができ盛会でした。

箱根駅伝では往路での藤沢一位通過は私の記憶にない快挙だと思いました。5区の検討及ばず30秒差の二位でゴールし、復路に期待を持たせる結果でした。復路も各ランナーは頑張りましたが駒大の方が一枚上手で検討むなしく二位となりました。しかし当初の目標を上回り来年が大いに期待出来る結果だったと思います。

次に、「新春の集い」は29日に市民会館で3年振りに開催しました。今回はメンバーとその家族に限定しました。ただ、特別ゲストとして昨春学員会の副会長に就任した小田原横浜支部長と岡田大和会長に参加をしてもらいました。第一部として中大落語研究会の3人（うち女性1人）の学生による落語会が開かれました。3人が古典の演目を熱演し、和やかな雰囲気につつまれました。

第二部の懇親会は讃歌斉唱、車椅子贈呈の報告（2台で合計39台）、当会最年長で94歳今井大先輩の元気な発声での乾杯により懇親会がスタートしました。小田原、岡田両学員会副会長からは学員会活動状況、大学の都心回帰状況、ウクライナ支援等の挨拶がありました。更に新入会員の紹介等のあとは久し振りの親睦交流で盛り上がりを見せあつという間に時間が過ぎ校歌斉唱等でお開きとなりました。

さて、令和5年度はウイズコロナではなくポストコロナで前に進めることを願っております。そして兼ねてより懇案の会員の増強（特に若い男女）とサークルの活性化を強力に進めていかなければならないと考えております。

昨年の暮れに未入会の若い学員の方々に駅伝応援と入会をお願いをしましたが、結果はあまり振るわず次年度以降に課題を残しました。

一方大学では都心回帰として茗荷谷キャンパス（法学部）、駿河台キャンパス（ロースクール、ビジネススクール、学員会本部等）がいよいよ開校となります。

昨年素晴らしい70周年記念式典と記念誌を作成した長野県中信支部とは、今後も地道に未永くお付き合いし、より一層交流を深めて行こうと考えております。

本年は卯年です。飛んで跳ねて飛躍の年にしましょう。そして藤沢白門会を発展させていきましょう。私もその為に精一杯努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

藤沢白門会 会長 片岡 久興



東京箱根間往復大学駅伝競走
第99回
箱根駅伝応援

箱根駅伝応援委員長 本間 徳也



中央大学2位躍進！ 22年ぶりの表彰台！

往路の3年生コンビ大活躍！ 2区吉居大和・3区中野翔太が区間賞！

第99回 東京箱根間往復大学駅伝競走
2023年1月2日(月)、1月3日(火)
往路・大手町読売新聞社前～箱根町芦ノ湖
復路・箱根町芦ノ湖～大手町読売新聞社前



前回6位に入り、10年ぶりにシード権を獲得した中央大は、予選会の準備、心配なしに、出雲駅伝3位、全日本大学駅伝7位と好成績をあげ、今回の駅伝での活躍を期待する声が高まりました。藤原監督の箱根駅伝目標も、今回3位以内、来期(100回大会)で優勝・完全復活というものでありました。

当会は、毎年場所を決めて往復路で沿道応援、特に3日の復路は応援後、新年会を開催、ゴールまでテレビ観戦をして応援を行ってまいりましたが、コロナ禍により2回にわたり応援を自粛する状況となっていました。今回も、コロナ禍が続いており、大学名を掲出しての応援、声を出しての応援が禁止となりましたが、感染対策をとることで沿道での応援が可能となりましたので、復路のみ藤沢小学校前で沿道応援を実施、3年ぶりに新年会を開催いたしました。

1月2日の往路は、一区の溜池が、常時トップグループの前方真ん中で引っ張り、白地に赤のCマークを見せつけ4位でタスキをつなぎ、二区で吉井兄が区間賞、1位で三区中野に、中野も区間賞で1位をキープ、特に藤沢市内を中大が単独1位通過するのは藤沢白門会ができて以降なかったと思います。その後、四区吉井弟が3位に後退し、五区阿部が巻き返し往路2位で芦ノ湖のゴールに。5人とも区間記録5位以内という復路に望みをつなぐ快走でありました。





1月3日の復路も、六区若林、七区千守、八区中澤、九区湯浅、十区助川が全員区間記録7位以内の好記録で、追いつけず抜かされずの一人旅となりました。藤沢小学校前では、片岡会長ほか20数名により、2位を独走する中澤に、熱烈かつ冷静に応援を行いました(テレビ中継では、藤沢小前でちょうど中澤をとらえており、沿道で応援していた皆さんも映っていました)。中央大は堅実にタスキをつなぎ、戦前の目標である2位を達成、22年ぶりの表彰台となりました。

藤沢白門会は、平成7年12月に発足、その直後の8年1月に中央大は32年ぶりに優勝を果たしましたが、その後駅伝の成績は思わしくなく、長期低迷が続きました。今回の活躍は次回での総合優勝を期待させる大きな成果となりました。当会としても、引き続き、より一層の応援をしてみたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

第99回箱根駅伝 中央大学陸上競技部 結果

総合成績 2位 10時間48分53秒

往路成績 2位 5時間23分40秒

1区 溜池 一太(1年)	63分02秒	区間4位
2区 吉居 大和(3年)	66分22秒	区間1位
3区 中野 翔太(3年)	61分51秒	区間1位
4区 吉居 駿恭(1年)	61分49秒	区間5位
5区 阿部 陽樹(2年)	70分36秒	区間3位

復路成績 2位 5時間25分13秒

6区 若林 陽大(4年)	58分39秒	区間2位
7区 千守 倫央(4年)	63分15秒	区間4位
8区 中澤 雄大(4年)	64分58秒	区間7位
9区 湯浅 仁(3年)	68分54秒	区間6位
10区 助川 拓海(4年)	69分27秒	区間3位



箱根復路
沿道応援の後

29人の参加で、新年会は盛り上がりました!



1月3日、復路を沿道応援した後から大手町のゴールまで、「花鳥風月」で新年会を開催、テレビ観戦で応援しました。

当日は、天候に恵まれ、中央大が活躍をしていたことから、沿道の出向いた会員も多く、その流れで29名が集まり、新年会を開催することができました。会長の挨拶に続き、新会員の紹介、挨拶、その後熱心に応援を繰り広げ、大いに盛り上がりました。

事前に申し込みをいただく方法で、円滑に行うことができました。参加された皆様、どうもありがとうございました。

なお、新年会参加者ほか32名から、陸上部への寄付協力をいただきました。箱根駅伝本番前に、地元高座豚のハム、ソーセージを差し入れましたので、併せて報告させていただきます。



鵜沼にて地引網大会を開催しました!



新型コロナウイルス流行の為数回中止となっておりますが今年度は10月22日(土)に久しぶりに開催する事が出来ました。当日は好天に恵まれ50人近く参加していただきました。久々という事もあり外で気持ちよくみなさんと楽しむことが出来ました。肝心の地引網の結果は…なんと大漁!!!スズキやカマス(特にスズキがすごかった)など今まで見たことのないくらいの大漁でした。全て持ち帰れなかった事が今後の課題となるのかなとは思いましたが…また来年度も皆さんと楽しく開催出来ればと思っております。

若手委員長 西尾 雄一郎



第24回SUC親睦交流会 3年ぶりの開催！



SUC親睦交流会の様子



中央大学 茗荷谷キャンパス(仮称)

去る2022年10月15日、土曜日、会場湘南クリスタルホテルにて3年ぶりの開催、参加者は14校72名と人数制限をかけた開催となりました。コロナ禍の中、大変な時期に開催に向け、ご尽力頂きました幹事校の工学院大学様に深く感謝申し上げます。

さて、SUC親睦交流会の第1部は記念講演、「箱根駅伝を科学する」と題しまして、工学院大学工学部機械工学科教授（現工学院大学学長）伊藤慎一郎様を講師に招き、約1時間の講話を楽しみました。

講演内容は、人間と他の生き物の関係から始まり、箱根駅伝の話へと続きました。箱根駅伝の魅力は①個人競技とチームスポーツの魅力②大学対抗戦ならではの魅力③毎年一学年分の選手が入れ替わる、という3つの魅力がある。それに加えて、身体・用具・位置取り、そして走路の状況など。今回の講演内容を思い出しながら箱根駅伝を見られたら、より一層箱根駅伝観戦を楽しむことが出来ると思います」で締められました。

会場にいる聴講者は、箱根駅伝予選会の日ということもあり、旬の内容であったことで非常に興味深く、終始、聞きいっておりました。

親睦交流会第2部は、階を変え、前年度幹事校の青山大学校友会湘南支部増村正副支部長様の乾杯の挨拶から始まりました。各テーブルには次々のご馳走が並べられる中で、各大学の近況報告として、「湘南ユニバーシティクラブ各校情報交換のためのアンケート結果の要旨報告」を幹事校、工学院大学笠原又一幹事様からスライドを使って報告されました。

次に各校の紹介があり、我が中央大学藤沢白門会が先陣を切り、14校の紹介へとタスキをつなぎました。この場を借りて中央大学は「都心キャンパスの新展開・多摩と都心の2大キャンパス形成」ということで、2023年4月より法学部・法科大学院法学研究科は茗荷谷キャンパスに移転、同時期に駿河台キャンパスに法務研究科のロースクール・ビジネススクールが移転することを紹介させて頂きました。久々の交流会開催ということもあって、早々に他校との元気な挨拶が飛び交い、懐かしむ声と会話を楽しんでいる雰囲気等、美味しい食事を舌鼓ながら、終始和やかな雰囲気に包まれていました。

次年度幹事校、関東学院大学燦葉会湘南支部森正明副支部長様の2023年に向けての力強い挨拶があり、最後の閉会挨拶は、幹事校の工学院大学校友会湘南支部佐藤浩安幹事様が無事開催出来たことの感謝を述べ、また来年元気に再会しましょう、と締められました。少々時間が早かったこともあり、なごり惜しむ声もありましたが、足早に会場を後にしました。

2023年は、コロナ禍の無い中でSUC親睦交流会を楽しみたいと思います。

来年の幹事校、関東学院大学燦葉会湘南支部様、宜しくお願い致します。



中央大学 駿河台キャンパス(仮称)



神奈川県下合同白門会 3年ぶりに開催される

藤沢白門会 副会長 端山 幸雄

令和4年11月5日(土)17時30分から、横浜中華街の「景德鎮本店」で、県下合同白門会が3年ぶりに開かれました。

横浜白門会支部が幹事となり、県下9支部・白門会の代表に加え、来年度発足予定の厚木支部設立委員会の方も3名出席され、41名の参加者で開催されました。今回はアトラクションも無く、限られた時間内での親睦交流だけでしたが、久しぶりということもあり、盛り上がった合同白門会となりました。この2年間、コロナ禍で、どの支部・白門会も活動が十分に行えず、四苦八苦している状況が報告されました。その中で、中央大学の学員会に、神奈川県から3名(小田原真人横浜白門会支部支部長、岡田孝子大和白門会支部会長、横浜市在住で同会会員の相場有二氏)の副会長が選出されているという報告もなされ、今後の県下白門会の発展に大いに貢献していただけるように期待が膨らむ明るいニュースもありました。

来年の県下合同白門会は、相模原白門会支部が担当幹事となり、橋本駅近くで開催される予定です。

来年も、さらに盛大に開催されることを願い、お開きとなりました。



令和5年 新春のつどい

令和5年1月29日(土)午後1時より、藤沢市民会館第1展示集会ホールにおいて、令和5年新春のつどいが3年ぶりに約50名の参加者で行われました。今回は、新型コロナウイルスの第8波感染拡大が予見されたため、会員のみで開催としましたが、予想を上回る参加者を得て、大変賑やかな会となりました。

第一部では新春を寿ぐ趣向で、中央大学落語研究会の学生3名による落語が披露されました。落研の先輩である深澤理事が、出演する男女3名の学生(松川俊也君、福山桃花さん、板垣空君)を紹介し、その後各自が紹介順に1席ずつ演じました。「粗忽長屋」「平林」「犬の目」という古典落語の演目で、学生たちの熱演によりそれぞれがばかばかしい可笑しさを誘い、会場はなごやかな雰囲気になりました。

第二部の懇親会で改めて3名が自己紹介した場面では、学生たちから厳しい稽古に耐え、先輩から合格をもらわないと一般の方々に披露ができないルールであること、また公民館など多くの一般の方々の前で披露して落語のレベルの上達に日々努力していることなどが話されました。学業とクラブ活動の両立は大変なことだと思いますが、それでも頑張る学生の純粋な姿に多くの参加者から後輩を見守り、応援する暖かな眼差しが注がれていました。

第二部では総合司会を務める川俣誠事務局長の開会の言葉に続き、藤沢白門会讃歌斉唱で幕を開けました。開会の挨拶は都合により、遠藤主計副会長が行い、若手会主催の地引き網をはじめ、幾つかの行事が3年ぶりに開催されたことが報告されました。新年度に向けては、感染予防策を講じた上で、総会をはじめ行事やサークル活動を再開し、徐々にではあるが会を盛り上げて行きたいとの意向が示され、会員への協力要請がありました。

続いて、端山幸雄副会長から、今年度の藤沢市への車椅子寄付は2台で、通算39台になったとの報告がありました。報告の中で、最近では行事開催が殆ど無く、車椅子募金の集まる金額が少ないため、次回の車椅子の贈呈が困難な状況であることから、車椅子募金への暖かいご支援とご協力を参加者全員に呼びかけました。

乾杯の発声は当会の最年長94歳とは思えない元気な声で今井昭吉先輩が行い、懇親会が始まりました。

懇親会では多くの参加者が久々に再会できる喜びからそれぞれのテーブルで会話が尽きない盛り上がりとなりました。

今回来賓の招待は控えましたが、昨春神奈川県内から選任された二人の学員会副会長に特別枠で参加いただきました。横浜支部の支部長でもある小田原副会長からは、この4月から法学部が都心回帰し、大学発展に期待がかかることと共に法学部学生の多摩キャンパスでのクラブ活動との両立が課題となること、同じく4月に駿河台キャンパスが供用開始され、学員会本部の復帰やロースクール及びビジネススクールが移転すること、また当該キャンパスには19階に展望ラウンジができることなどの大学の近況に加えて、入学志願者増加の状況や学員会活動状況などが報告されました。大和白門会の会長でもある岡田副会長からは大和白門会と本会がウクライナ大使館を訪問し、支援物資と支援金を手渡した経緯について報告がありました。

新入会員紹介の場面では、それぞれの入会者の動機や想いが語られ、今後のイベントに積極的に参加し、同窓の仲間とともに楽しみたいとの思いが語られました。

懇親会の締めには、坂口秀之君が藤沢白門会応援団長を務め、数名の団員と共に盛り上げの第一歩となる校歌斉唱となりました。会場には、中央大学の益々の発展祈念と会員一同の親睦と結束に加え、来年こそ箱根駅伝での優勝を勝ち取ろうという意気込みが満ち溢れました。

これからもコロナ情勢はしばらく続くものと考えられますが、コロナに負けずに、それぞれが中大魂を発揮し、健康で幸せな一年であるよう誓い合い、無事終了となりました。

親睦行事委員会 土屋 恭之

3年ぶり盛大に開催

長野県中信支部 創立70周年記念事業に参加して



令和4年7月3日、当藤沢白門会の姉妹支部である長野県中信支部の創立70周年記念事業に、片岡会長、川俣事務局長と3名で出席しました。

記念式典は、支部総会に引き続き開催され、支部長あいさつの後、久野修慈中央大学学員会会長、大村雅彦中央大学理事長、才口千晴元最高裁判所判事の来賓挨拶の後、松本市への車椅子の贈呈が行われました。

今回の記念事業は、一般・高校生向けの大学説明会、特別講演、座談会が記念式典と一部並行する形で実施されました。

中信支部では、これまでも学術講演会を毎年開催したり、ホームカミングデーに出店したりと、小林支部長を中心に日々精力的に活動していますが、今回の70周年記念事業では趣を変え、法曹への挑戦を考えている約40名の高校生に司法試験のシステムや法曹になるまでのプロセスの説明を行い、才口千晴元最高裁判所判事による特別講演、県内で活躍する中大OB検事や弁護士を交えたパネルディスカッションを行うなど、様々な形で法曹の仕事の広がりや魅力を伝えることで、減少する法曹の増加、優秀な人材の母校への進学誘導をねらったとのことでした。

母校法学部や法科大学院の紹介、受験生への支援体制、進路相談も加えることで、法曹への関心のみならず母校の紹介を通じて地域高校生の進学意欲を高める取組みは、まさに、司法試験合格者を多数輩出してきた中央大学の卒業生集団の強みを生かした取り組みであるとともに、母校への多大な貢献へつながら、素晴らしい事業であると感服しました。

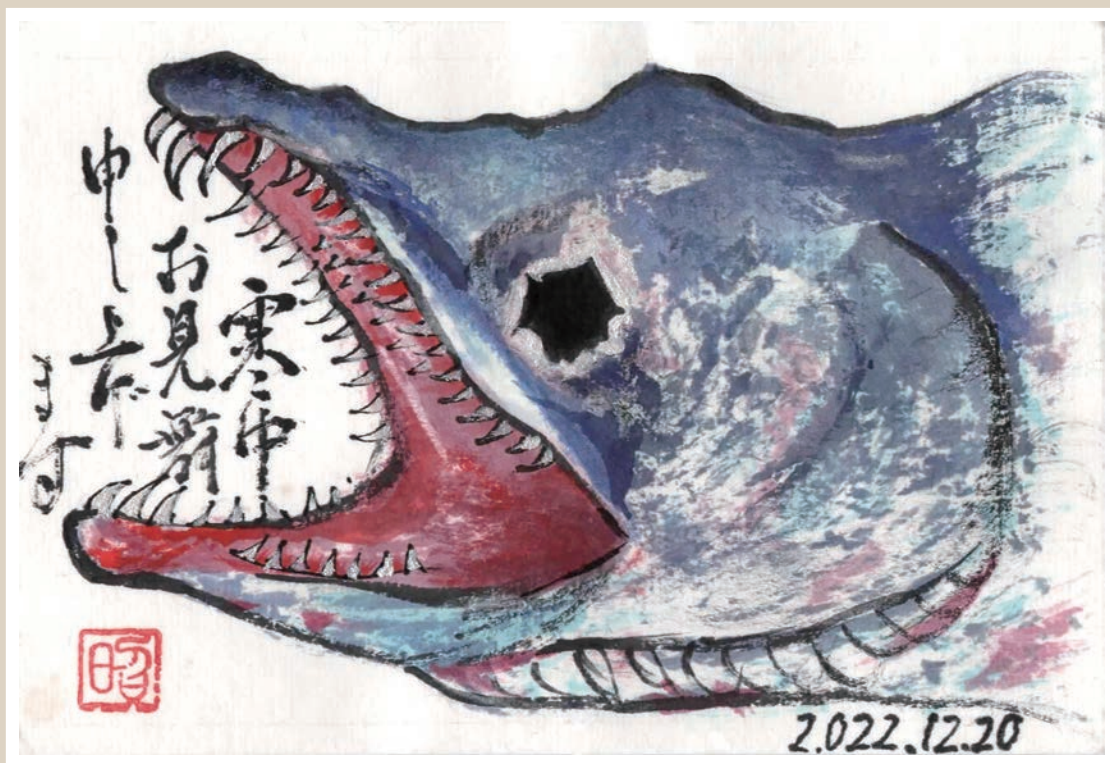
そして、この日に至るまで、県内多数の高校を個別に訪問する傍ら、企業訪問で資金を調達するなど、一方ならぬ努力を積み重ねてきた小林支部長と役員の方々の斬新なアイデア発案と実践する行動力に敬意を表するものであります。

私としても藤沢白門会の一員として、今後も姉妹支部としての友好関係を継続するとともに、新たな視点での事業展開や活動強化策を学ばせていただき、事業推進に生かしていきたいと思っております。

藤沢白門会 副会長 遠藤 主計

文化・文芸

のコーナー

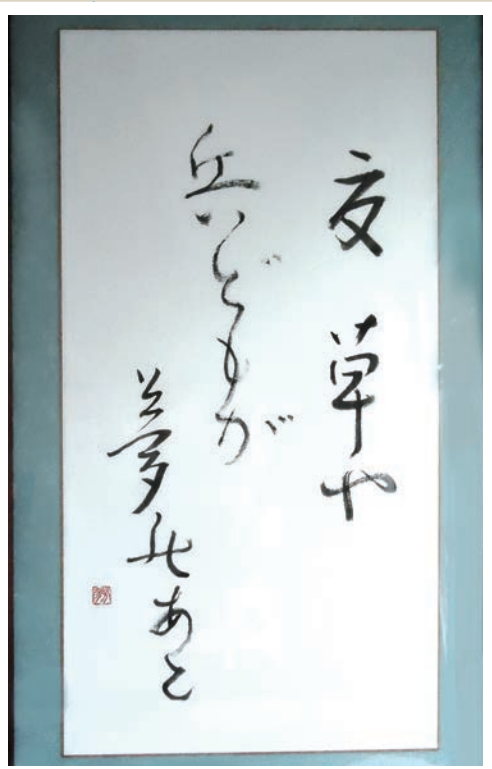


▲ 絵手紙（寒中見舞い） 石原 昭憲・昭和 41 年 経済学部卒



▲ 色鉛筆画（栃木県益子町） 城崎 芳彦・昭和 44 年 経済学部卒
栃木県の益子町から茨城県笠間市に向かう山間の風景です。
水田の稲も実り、辺りも紅葉の色で染まり出しました。

◀ 書道（松尾芭蕉の俳句） 城崎 芳彦・昭和 44 年 経済学部卒
夏草や 兵どもが 夢の跡
（夏草だけがおいげっている ここはかつて奥州藤原氏が栄華を誇った場所）



俳句、絵、書道、その他創作をしていらっしゃる方々におきましては、毎年一回発行の会報へ掲載し、活動をご報告させていただいております。お気軽に作品をお持ちください。

文化、文芸

のコーナー

俳句

白壁

服部 治

(昭和三十五年 法学部卒)

明ける空紅梅の香のかすかなる

国境を越えて昇るや積乱雲

瞭たるや月光九月遠ざかり

(NHK俳句学園実作コンクール入選・令和二年度)

白壁や光のなかに春隣

江の島へ風の道あり大旦

おおあした

(芭蕉翁献詠俳句入選・令和四年度)

❁ 三和 彦幸 さん(昭和45年 商学部卒)

皆さんはじめまして。去年の1月に辻堂東海岸に中野から引っ越しまして、入会させていただきました。家内の実家が辻堂でして、箱根駅伝の応援新年会にはご一緒させていただいておりました。

引っ越して1年が経ちますが、去年は仕事や行事で50回ほど都心に通い、他は富士山の観える辻堂海浜公園や海岸を歩いていまして、80歳位までこのパターンで過ごせればと思っております。

支部の行事には勝手ながらぼちぼち参加させてください。どうぞよろしくお願いいたします。

❁ 近藤 芳生 さん(1960年4月27日 新潟県長岡市生)

父母連絡会神奈川県支部長、父母連絡会本部役員副会長、現在中央大学商議委員。

中央大学父母連絡会役員を4年間務めた後、学会会入会、この度の藤沢白門会入会させて頂く運びとなりました。仕事は東芝テック(株)から、現在フジ産業(株)に勤務しております。

高校は新潟県立長岡高校(野球部で甲子園出場2年で補欠)、大学は東洋大学文学部哲学科出身(管弦楽団チェロ)

父母連絡会役員をやっていたことも有り、藤沢白門会との交流を促進して卒業生の多くが白門会へ興味を持って貰える様に活動していきたいと思っております。

国内外への旅行が好きで美味しい料理にお酒も大好きです。お薦めのお店がありましたらご紹介ください。

* 石川 敏男 さん(昭和63年 法学部卒)

はじめまして。令和4年入会したS63法(法)卒の石川敏男です。

藤沢市出身で、高校までサッカー、大学では体連空手部でした。同部では62年卒、なぜなら5年生したからです。

卒後は土業事務所を転々とした後、大手物流会社で11年間主に法務を担当。5年前に土業に戻り、横浜市泉区で行政書士法人の代表をしています。

現在、空手は断続的、月例湘南マラソンを時々、50過ぎで始めたゴルフは上達しません。どうぞよろしくお願いたします。

* 手計 ^{てばかり} ^{たいち} 太一 さん(平成12年 理工学部卒)

藤沢白門会の皆様、初めまして！理工学部土木工学科（現在、都市環境学科）を平成12年に卒業した手計太一と申します。2021年4月に理工学部都市環境学科に戻ったのを機に、藤沢市に居を構えました。

土木工学科を卒業後、大学院に進学し、博士前期課程を終了後、独立行政法人土木研究所に4年、福岡大学工学部に3年、そして富山県立大学工学部に12年勤めて参りました。専門は水工学、河川工学、水文学、水資源学、防災工学です。日本国内だけではなく東南アジアを専門に水循環や水災害を中心に研究しています。休日はフットサル、サッカー、テニス、ゴルフといった運動中心に過ごしており、週に1、2回は海岸を走っています。

学会を盛り上げて参りたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

* 伊藤 悠 さん(平成31年 法学部卒)

大変お世話になっております。平成30年度卒業生の伊藤悠と申します。学部学科は法学部政治学科で、在学中は真法会研究室に所属しておりました。

生まれてこのかた26年間ずっと藤沢市民でして、この町が大好きです。現在は横浜市で弁護士をしているのですが、事務所探しの際は、なるべく県外に出ないように、藤沢にいつでも戻れるようにということ意識してやっておりました(笑)。

今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願申し上げます。

* 海塩 久実 さん(平成31年 文学部卒)

はじめまして！文学部教育学専攻を平成31年に卒業した海塩久実と申します。

藤沢生まれ、藤沢育ちで高校生の頃は江ノ電で通学していたこともあり、江ノ島周辺で遊ぶことが大好きです。

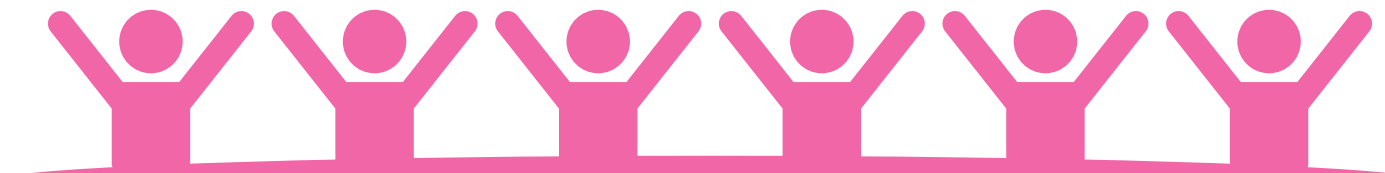
現在は学習塾に勤めていて、小学生から高校生まで幅広く子どもたちと関わっています。

中高と部活は吹奏楽部で打楽器を担当していたので、音楽を聴いたり楽器を演奏することが好きです。

休日はカフェ巡りや家などでインドアに過ごすことが多いですが、ヨガやスポーツなどもはじめて体も動かそうかと思っています！

どうぞよろしくお願いたします。

よ ろ し く お ね が い し ま す



大和白門会のウクライナ支援に寄せて



令和 4 年 9 月 15 日、長年医療に携わってきた大和白門会の岡田孝子会長による発声の下、「医療と子供達へ」をコンセプトにした人道支援計画が立てられ、当藤沢白門会も参画させていただきました。

支援に当たっては、岡田会長の「医療・子供達の支援に限って使って頂きたい」との趣旨を直接面談で説明したいと記した事務スタッフによる英文レター攻勢により、ウクライナ大使館において経済協力担当インナ・イリナ外交官との面会が実現しました。

当日、大和白門会より多くの支援物資及び支援金が納められ、藤沢白門会から筆者が同行し、支援金を渡すことができました。

また、この行動も一つの契機として、中央大学が戦火のため学びの機会が失われつつあるウクライナ国籍を有する学生等の令和 5 年度からの受け入れを決めたと考え、人道支援の一環として大変大きな成果であると同時に、誇りに思います。

藤沢白門会 副会長 **吉原 和義**

※当記事は大和白門会のご厚意により、ウェブ掲載記事から引用し起稿しました

令和4年度を振り返って



右から藤沢市福祉総務課古郡課長、藤沢市社会福祉協議会加藤会長、藤沢白門会遠藤副会長、川俣事務局長

令和 4 年に起きた重大にして歴史的な出来事は、ロシアによるウクライナ侵攻です。それは令和 4 年 2 月 24 日に始まり、1 年が経過した現在も戦争が続いています。多くの尊い人命が失われ、世界的な景気後退を招き、人々の生活に暗い影を落としています。一刻も早く終わることを願わざるをえません。

また、令和 4 年度も変わらず新型コロナウイルスが全世界で猛威をふるいましたが、年度後半には弱毒化が進み、その脅威が薄れつつあります。こうした状況から、令和 5 年度の本会活動も徐々にエンジンの回転を上げていくことができそうです。

～車椅子贈呈～

令和 4 年度も藤沢市へ車椅子を 2 台贈呈し、平成 12 年以降合計 39 台になりました。これも偏に会員皆さまからの温かい募金によるものであり、感謝申し上げます。新春のつどいでは 36,245 円と多額な募金を頂きました。今後ともご協力をお願いいたします。

事務局長 **川俣 誠**

編集後記

コロナにいつまで翻弄されるのでしょうか。早く普通の生活に戻りたいものです。今年度の特筆すべきことは、我が中央大学が箱根駅伝大会で、堂々の 2 位に入ったことです。私たちは、本当に元気づけられました。最高の新年を迎えることができました。そしてもう一つは、「地引き綱」が実施できたことです。久しぶりに大勢が参加して、みんなで盛り上がりました。久しぶりに白門の絆を感じました。

さて、今年も会報がタブロイド版になったことをお許しください。内容は、みなさんに楽しんで読んでもらえるように努力いたしました。

本誌の発行にあたり、原稿を投稿して頂いた会員のみなさま方をはじめ、多大なご協力を頂きました多くの方々に対して、心より御礼申し上げます。

<ヨッシー>